

今週（3月11日から3月15日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週に引続き調達意欲の強い展開が続いた。財政等要因で大きな動きはなく、日銀当座預金残高は375兆円前後での推移となった。無担保コールO/Nは邦銀を中心に調達意欲が非常に強く、地銀・証券業態の出合いは▲0.05～▲0.002%、都銀・信託業態の出合いは▲0.06～▲0.025%近辺での出合いとなった。積み最終日となる15日は、次の積み期間にかかることやレポレートが落ち着いたことから、弱含む展開も予想されたものの、地銀を中心に調達意欲は依然として強く、レートに大きな変化は見られなかった。無担保コールO/N加重平均レートは、▲0.02%台半ばから前半と、週を通して高止まりとなった。ターム物の出合いは、調達意欲が強い一方で、オファーサイドは非常に薄く、散発的な出合いが見られた程度であった。1～2Wのショートタームで▲0.035～▲0.020%の出合いが見られた。固定金利方式による共通担保資金供給オペは15日に2W物・15,000億円がオファーされ、1,634億円（期落ち額2,630億円）と札割れとなった。

3月14日～15日に開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。

11日には「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」が公表され、2019年3月の積み期間の基準比率を32.5%、2019年4月～5月の積み期間の基準比率を35.5%とすることが決定された。昨年と同様に、3月の積み期間中に当座預金残高が大きく積みあがることを考慮し、積み期間ごとの政策金利残高のプレを抑えるため、期間を分けての公表となった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.11～0%程度のレンジで推移した。週半ばまでは先週の流れを引き継いで高めのレートで推移したものの、14日のT/N（15-18）以降は、次の積み期間に掛かる取引となったことで、レートが低下した。

SC個別銘柄では、5年130～138、10年335～353、20年160～167、30年55～61、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半こそ足元GCレートの高止まりから軟調に推移していた。しかし、GC T/Nの受渡が14日以降、新積み期にかかるようになると、現物のレートも反転し、レートの上昇地合いに一服感が見られるようになった。

12日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。応札額が1兆7,732億円と多く、平均落札利回較差+0.016%、按分落札利回り較差+0.012%と、引け値の低い銘柄の在庫調整の売りからか、弱めの結果となった。

14日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.150～▲0.140%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1437%、按分落札利回▲0.1358%とWI取引の出合いを反映し、順調な結果となった。セカンダリーでは、▲0.150～▲0.140%の出合いと堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、期末で残高調整の動きも出始める中、月前半ということもあり、週を通して落ち着いたマーケットとなった。発行量は週間償還総額1兆1,500億円程度に対して、発行総額は8,500億円程度と償還超となっており、市場残高は14日時点で19兆5,068億円と2月末から1兆1,700億円程度減少している。発行レートは、期内物は0%近辺から浅いプラス圏での決着、期越え物では期末の市場残高減少を見込んだ投資家・ディーラーの玉確保ニーズの強まりからマイナス圏での決着が中心であった。ただし13日以降は12日のCP等買入オペでポジションを落とした投資家・ディーラーのニーズの強まりからか、期内物についてもマイナス圏での強めの決着となる銘柄も見られた。

12日にはCP等買入オペが事前予定通りの3,500億円でオファーされた。オファー額が先月から1,500億円増額されたことによるレート低下期待や、市場残高の増加が止まったことで売却ニーズも限定的であったことから、按分落札レート▲0.011%・平均落札レート▲0.009%と按分・平均ともに前回（按分▲0.006%・平均▲0.000%）比で低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
3/11（月）	21,125.09	△ 0.040	111.12	△ 0.024	△ 0.017	3,751,600
3/12（火）	21,503.69	△ 0.035	111.40	△ 0.022	△ 0.047	3,757,600
3/13（水）	21,290.24	△ 0.050	111.30	△ 0.021	△ 0.070	3,742,100
3/14（木）	21,287.02	△ 0.045	111.25	△ 0.023	△ 0.068	3,750,500
3/15（金）	21,450.85	△ 0.040	111.86	△ 0.021	△ 0.110	3,765,600

来週（3月18日から3月22日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/18 (月)	2月の貿易統計(財務省 8:50)				
3/19 (火)	10-12月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	TB1Y 19,000億円 3/20発行	20Y 10,000億円 3/20発行		米FOMC(1日目) 1月の米製造業新規受注・出荷・在庫 2月の米住宅着工件数
3/20 (水)	月例経済報告(内閣府) 金融政策決定会合議事要旨(1月22・23日分 8:50)				米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 2月の英消費者物価指数
3/21 (木)	春分の日				英中銀MPC結果発表
3/22 (金)	2月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,200億円 3/25発行	流動性供給 4,000億円 3/25発行		1月の米卸売売上高 2月の米中古住宅販売 2月の米財政収支

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/18 (月)	400	▲ 900	▲ 500	全店共通 ETF買入 国債補充 貸出増加支援	▲ 2,600 100 ▲ 22,400	1,600 200 37,700	14,600	14,100	特別交付税 TB3M発行▲43400償還41500
3/19 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	確定申告
3/20 (水)	▲ 1,000	98,000	97,000				0	97,000	国債利払い・大量償還 TB1Y発行▲19000償還11100 5Y償還33100 10Y償還55400 20Y発行▲10000償還13100 変動15Y償還3500 エネルギー対策借入▲4000期日3500
3/21 (木)	春分の日								
3/22 (金)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
週間合計	▲ 1,600	97,100	95,500	—	▲ 24,900	39,500	14,600	110,100	

3/18は日銀予想、3/19以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日の国債大量償還・利払いによって大幅な資金余剰となることに加え、積み期間の序盤となることから、無担保コールO/N物がどの程度低下するかが注目される。レポ市場は新積み期間に入ることもあり、▲0.13～▲0.05%と、前積み期間よりも低いレートでの推移が予想される。短国市場は、19日に1Y物、22日に3M物の入札が実施予定となっており、期末を控えて、マーケット動向や短国買入オペの実施日などが注目される。CP市場は月後半に向けて発行ニーズが増加してくると見られるが、期末の残高調整の動きから償還超となることが予想される。期末越えの発行量や玉確保ニーズによるレート低下がどの程度となるかが注目される。

主要なイベントとしては、国内では22日の2月の全国CPI、海外では19～20日にFOMC、21日にMPC結果発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂く場合があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入